

事例項目	05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力・特別支援教育に係る情報発信
概要	高等学校と特別支援学校の連携による早期支援
事例提供校	高校：東部地区 定時制 特支：御殿場特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	自閉症スペクトラムの生徒で、分からないことや苦手なことがあると感情のコントロールができずに、怒りを爆発させてしまいます。また、少人数の学級のため、一人が落ち着かないと周囲も茶化した雰囲気になり、騒いでしまいます。どのように対応したらよいでしょうか。
事例の内容	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	1回目：生徒の様子を聞くとともに、自閉症スペクトラムの一般的な対応を助言しました。
	2回目：具体的な対応方法、リラックス方法、自己理解の方法についての助言をしました。1回目の助言を受けて、支援が開始されていました。
	3回目：状況の確認、支援の後押しをしました。高等学校からは、生徒が落ち着いて来たので「自立活動」的なことをしたい、その協力をしてほしいとの要請がありました。
	4回目：「自立活動」的な内容は、自分が得意なことから始め、困っていることを聞き出し、生徒と一緒に考えてはどうかと提案しました。また他県の支援の資料を提供しました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	3回目：具体的な対応方法を聞いて支援に取り組んだところ、授業に落ち着いて取り組めるようになり、本人も学校が楽しいと言っています。学校として卒業まで支援したいし、保護者と共通理解を図ることができたので、就職を考えたいと思います。 その後：「自立活動」的なことを養護教諭が放課後30分、月2回のペースで実施しました。本人も楽しみにしていました。最近は問題行動もなくなり、本人も就職を目指しています。2年生末には「自立活動」的なことは終了予定です。
	特別支援学校 担当者のコメント
センター的機能を活用した感想	高等学校は、中学校から情報があがっていたこともあり、支援が必要なケースだと認識していました。また、問題が発生した時にすぐに支援が必要だと認識し、支援を依頼してきました。特別支援学校でも中3から進学のことと相談があったケースであったため即対応でき、素早い対応が結果に結びついたと思われます。
	高等学校は特別支援教育コーディネーターや担任だけでなく、教頭、養護教諭も相談に加わり組織的な体制を整え、先を見越した支援が即行えたことは良かったと思われます。

まとめ
本校は、①支援の主導は高等学校が行うこと、②高等学校は高校教育、特別支援学校は特別支援教育の各専門家としてコンサルテーションの考えで支援を行うこと、の2点を支援のスタンスとしました。互いの専門領域の中で協力して支援を行えたことが、良い方向に迎えたのではないかと考えます。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力・特別支援教育に係る情報発信
概要	特別支援教育コーディネーターが各連携高等学校を訪問しての情報交換とその対応
事例提供校	高校： 東部地区 全日制高校 特支： 富士特別支援学校富士宮分校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出や授業の板書に時間がかかる生徒に対しての対応方法を教えてほしいです。 ・Aさんの授業を担当する教職員間での共通理解やコミュニケーション不足をどうしていけばいいのか教えてほしいです。
事例の内容	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を訪問し生徒の様子を見学。Coの教員、担任からAさんの現状と困り事を聞きました。 ・校内の体制づくり、ケース会議に参加するメンバーの選び方、Aさんが支援を必要としていることを共通理解することをまず第一歩として進めていくことを助言しました。 ・医療機関につなげ、医療機関で客観的なアセスメントができるようにするとスムーズに進んでいくことを確認しました。 ・課題の提出や板書に時間がかかることについての支援内容・方法を提案しました。 ・評価（成績）について、他の高等学校の情報を集めて提供しました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を行えたことで、教員の意識の変化や配慮して進めようとする雰囲気になってきました。 ・合理的配慮、評価など、高等学校の支援事例を教えてください。 ・病院の受診、発達検査を行うこととなりましたが、今後も生徒のことで相談にのってほしいです。
センター的機能を活用した感想	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から「個別の教育支援計画」などの申し伝えがなく、高等学校の教員が苦慮されていたことがわかりました。今後は「個別の指導計画」の作成にも関わっていきたいと思います。 ・今後は、医療機関受診後の本人、保護者の支援をどうしていったらいいのか、一緒に考えていきたいと思いました。 ・気持ちが不安定になったり問題行動が出たりと二次障害も見られていました。相談をしていただけたことがAさんへの早期の支援につながったと思いました。

まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校卒業までに自分の得意なこと、苦手なこと、支援が必要なことなどの自己理解をし、進路選択ができるように考えていくことが重要であると思いました。 ・Aさんは担任と良好な関係にありました。生徒が相談しやすい環境づくりや人間関係作りが必要であることを再認識しました。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導 05 学校体制づくりのサポート
概要	肢体不自由がある生徒の入学に関わる相談（支援方法等について）
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校伊東分校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該高等学校の管理職（校長からの依頼の後、副校長が来校）から、「入学希望の中学生に、事故による重度の身体障害（脊髄損傷と思われる）者がいます。合格し入学する場合、結果発表後の短期間では準備が間に合わないため、合格・入学した場合の、支援方法、介助のための要員について相談にのってほしい」と依頼しました。 ・高校は移転統合を控えるが、令和5年度においては、現校舎を使用するため、エレベーターなどがなく、教室移動やトイレ使用時などに頻繁な介助が必要と考えられます。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）

- ・当該校の校舎同様、エレベーターがない状態で、特別支援学校においても児童生徒の教室移動に対応しています。また、高校併置の特別支援学校でもエレベーターがなく、スロープも一部しか設置されない状況で車いすの生徒を支援しました。階段昇降時の車いす介助の方法や段差の移動方法、階段で使用したキャタピラ付き可搬階段昇降機などについて説明し、対象者の障害状況を確認しながら、他に必要な支援内容を想定し、意見交換しました。
- ・管理職からは、そのような支援経験がある職員の確保についても相談があったため、必要な技能や要件についてアドバイスしました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の経験を下にした情報が得られて良かったです。入学後も相談が必要になる可能性があるため、今後とも支援をお願いしたいです。
	特別支援学校 担当者のコメント

- ・入学後の支援についても必要に応じて相談にのる旨了解すると共に、肢体不自由教育に豊富な経験と知識をもつ東部特別支援学校本校の紹介もしました。
- ・今後、校内での支援にとどまらず、進路選択などについても情報交換できると互いにとって意義があると考えます。

まとめ

肢体不自由生徒に対する具体的な支援が理解され、実践された。これらにより教職員の不安感もいくらか払しょくされたように思う。高校生活に不安を感じていた生徒もいくらかは安心できたとい報告もある好事例である。今回の支援を機会に、両校の関係が継続し、生徒に対する支援が継続していくことが望ましい。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	05 学校体制づくりのサポート
概要	合理的配慮に関して、在籍する車いすの生徒が作法室に入室できるために、スロープを借用したいという相談
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 沼津特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間近に控えた文化祭への準備の中で、茶道部の活動に係り、在籍する車いすの生徒が作法室に入るためにスロープが必要である、という課題が急ぎよ浮上しました。 ・ 今日明日にお借りすることはできませんか。 ・ 最初に思い付いた貴校にとり急ぎお電話しました。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<p>肢体不自由特別支援学校である、東部特別支援学校に連絡してみてもいいでしょうか。</p> <p>東部特別支援学校には車いすの生徒が多数在籍しており、スロープなど、建物の段差に対応する機材等を所有しているのではないかと思います。</p> <p>本校は知的障害特別支援学校で、現在は車いすの生徒が在籍しておりません。</p>

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・ すぐに東部特別支援学校に連絡を入れ、スロープが借用できました。 ・ 当該生徒は、作法室にて、無事に他の生徒と共に文化祭の活動に参加することができました。 ・ 文化祭が間近に迫っており、とり急ぎ市内の特別支援学校に相談しましたが、そこから対応できる学校につなげていただいたことで大変助かりました。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<p>生徒さんが希望する形で文化祭に参加することができ、本当に良かったと思います。</p> <p>今回の件で、センター的機能の活用には、どんなことでもまず御連絡いただくことが大切であることを実感いたしました。</p> <p>自校の特色を生かした支援もさせていただきますが、特別支援学校のネットワークを生かして、相互に連携して支援することもできますので、どんな小さなことでも御相談いただければと思います。</p>

まとめ
<p>今回のように段差に対応するスロープのようなある程度大きなものから、見え方、聞こえ方に対応した補助具、コミュニケーションを補助する機器やアプリケーションなど、特別支援学校にはそれぞれの障害種に応じて、合理的配慮に利用いただける教材教具が備わっています。</p> <p>どの特別支援学校に何が、と迷われるようでしたら、まずは身近な特別支援学校に御相談ください。特別支援学校間のネットワークを生かし、可能な限り対応させていただきます。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。